

# Book Review



## ゼロから見直す根尖病変 基本手技・難症例へのアプローチ編

倉富 覚、著



Reviewer

松井宏榮 Hiroshige Matsui  
(神奈川県・松井歯科医院)

A4判変、160頁  
オールカラー  
定価(本体9,000円+税)  
医歯薬出版刊



卒後20年という枠を遙かに超えた治療レベルと臨床に対する真面目で真摯な姿勢は、素晴らしいの一言で、感動している。人間性溢れる豊かな感性と人並み外れた明晰な頭脳だけでなく、日本一厳しいと言われる下川歯科医院を長年にわたり最後まで勤め上げた執念とも言える根性が、50年にわたる“下川イズム”を継承し、この素晴らしい臨床に結びつき華開いたと言える。

歯内療法は、歯髄と歯根膜との病理組織学的な関係と防御機構をしっかり理解することで感染根管と非感染根管の違いを明確に区別し、科学的な臨床術式により、誰もが良好な結果をもたらすことにあるとしている。そのために重要なのは、正確な診断を行い病理組織学をベースにした根管拡大の概念をしっかりと理解し常に確実な手技を心掛けることであり、その情熱をモチベーションに自己研鑽の必要性を謳っている。

『根管治療は歯科医師の良心である』という言葉は、見えない部分であるがゆえに、見える部分以上に手を抜かないしっかりした治療が必要であるという、歯科臨床の根本をなす姿勢であり、言葉の重みをひしひしと感ずる。まずは『エンドをきちんとできることを目標に頑張りなさい』という故・山

内厚先生のひと言は歯科臨床の礎であり戒めでもある。

本書は、第1巻「診断・治療コンセプト編」に続く第2巻「基本手技・難症例へのアプローチ編」であり、第1巻での『組織学的戦略』に続いて、第2巻では『実践的戦術』が詳細に解説されている。第1巻では、抜髄根管と感染根管の違いによる根管治療のコンセプトが、複雑な根管や根尖部の起炎因子の除去というポイントで解説され、第2巻では、根管治療の最大の目的となる起炎因子の除去をいかに確に時間をかけないで行うことができるかに言及され、開業医という限られた時間で最大限の効率を考え、良好な結果を出すかという実践的戦術が網羅されている。難症例に対しても見事に完遂した根管治療は、天性の素質や才能だけでなく、常に患者のために完成度を追求する真摯で地道で誠実な努力の賜物であると感銘を受けた。3種の神器と言われる歯科用CBCT・マイクロスコープ・NiTi ファイルにより診査や効率が向上しても、基本的な概念に変化はないと断言され、その的確な治療内容とともに長期にわたる経過観察から自らの臨床を客観的に分析し、自己評価を自問自答し次の臨床に活かしていく姿勢も素晴らしいと感じる。

「下川公一先生の至言集」には、治

療法の伝達だけでなく、臨床で大切な50年間にわたる下川イズムのエッセンスが散りばめられ、臨床医としてあるべき姿の極意が示唆されていて、楽しみながら一頁一頁を捲りたくなる成書である。

基礎の重要性、臨学一体の必要性を見事に臨床において融合し、さらに倉富先生自らの臨床に対する飽くなき探究心と妥協を許さない強い信念を貫いた“こだわり”がずっしりと感じられる書である。それ以上に、医療人として、臨床医として、最も大切な正統で真摯な熱き情熱が迸り輝いているように感じる。厳しい環境により洗練され、明確な臨床の方向性を見出され、さらに新進気鋭の精神とともに実力を発揮され、画竜点睛のごとく目標に向かって邁進されている姿は、後続する若手への素晴らしい手本となるものと確信している。若手だけでなく臨床経験豊富な臨床家にとっても道標となり、自らの臨床のあり方を振り返り“0にリセット”し、再認識させる力量あるバイブルに値すると拝読した。

まさに、下川イズム直系の伝承者に相応しい素晴らしい臨床を発表されたことへの敬意をもって書評とさせていただきます。読者の方には、是非、1巻・2巻を連続して読破されることを推奨する。